

平成24年度 第4回会計学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日 時：平成24年9月21日（金）午後2時00分から午後4時00分
- II. 会 場：私立大学情報教育協会 事務局 会議室
- III. 出席者：椎名副委員長、阿部委員、金川委員
(事務局) 井端事務局長、森下主幹、松本職員

IV. 議事概要

1. 検討内容

1) 学士力実現に求められる教育改善モデルの検討

- 「会計学教育における学士力の考察について」（資料④）の文章と表を検討した。
- 「会計学教育における教育改善モデル（その1）」（資料⑥.1）の図を検討した。
- 「会計学教育における教育改善モデル（その2）」（資料⑤.2）の図を検討した。

(1) 会計学教育における学士力の考察について

- ① 資料④7行目「ところで、これまでの会計学教育は、会計専門家の養成を目指したものとなっており、とりわけ会計情報の作成に関する知識・技能の修得に重点が置かれていた。」について議論された。その結果、以下のように、修正された。
「そこで、会計学の広範な活用を通して、社会の発展により貢献するため、会計学の高度な活用を必要とする専攻レベルに加えて、社会人の素養として会計情報の意味を読み取る一般レベルの育成を目指すことにした。」
- ② 表について修正された。表題を「一般・専門レベルの対象者のイメージ」とした。
- ③ 第1列目の項目を「対象」とし、第1列2行目の「一般レベル（会計学非専攻）」を「一般レベル（会計学以外の専攻）」とした。
- ④ 第2列2行目の「自立した社会人を志望」を「一」とした。

(2) 会計学教育における教育改善モデル（その1）

- ① 資料⑥.1の図について、図中央の「学修支援システム」の項目を次のように修正した。①共通教育終了後も4年間に亘りフォローアップ学修、②eラーニングによる再学修支援③ネット上のグループ学修④到達度評価
- ② 図中央下の「共通教育 会計学総論等」を「会計学総論等（会計マインドの育成）」に修正し、ボックスを引き伸ばした。
- ③ 図中央下の「IR 情報」「EDINET」のボックスは、外部であるため縮小し、IR 情報・EDINET等」と一つにして、図右下に移動した。
- ④ 図下の「点線についての凡例」を図上に移動し、縦に並べた。

(3) 会計学教育における教育改善モデル（その2）

- ① 資料⑤.2の図について、図中央上の「企業の実務家」を図左に、図左の「社会」を図右に移動し、図中央のボックスを「大学」とした。
- ② 図中央上の「コンソーシアムの構築」を「大学コンソーシアムの構築」とした。
- ③ 図右上の「企業の実務家」と「教員間の連携・情報共有」との関係を「産学連携」とした。
- ④ 「学びの成果」を図右下の「学生グループ」だけでなく、「教員間の連携・情報共有」からも「社会」へ向け矢印を図右上に追加した。
- ⑤ 図左下の「企業の実務家」と「学生グループ」との関係に、「企業の実務家」からの「意見・助言」と「学生グループ」からの「発表」を追加した。
- ⑥ 「教員間の連携・情報共有」と「学生グループ」との間関係は、資料⑥.1の図の「専門科目の授業」と「会計学総論」との間にあるような「学修支援システム」とした。その内容を①基礎科目のeラーニング、②ネット授業、グループ学修、振り返り授業、③実務家の情報提供、学修支援、質疑応答、④評価などとした。

以上のように、資料④の文章と「一般・専門レベルの対象者のイメージ」の表、資料⑥.1の図「授業の仕組みのイメージ図」、資料⑤.2の図が修正された。

2. 次回の委員会

今年度は今回の委員会が最終回である。次回の委員会は、未定。

以上